

福岡市科学館 第24回サイエンスコミュニケーション開発会議		作成日： 2026年1月26日(月)
月日： 2026年1月26日(月)	時間： 13:00～16:00	場所： 福岡市科学館6階サイエンスホール

- 出席者：
【委員】
日本ボーイスカウト福岡県連盟 理事長
福岡テンジン大学 学長
国立科学博物館 産業技術史資料情報センター フェロー 博士(工学)
九州大学大学院 人間環境学研究院 准教授・博士(人間環境学)
株式会社西日本新聞社 特別論説委員
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 共創戦略統括本部 特任准教授・博士(医学)
公立大学法人福岡女子大学 教授・博士(工学、技術経営) 女性リーダーシップセンター センター長
福岡市立東若久小学校・若久小学校・長丘小学校 拠点校指導教員
東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム 特任准教授・博士(理学)
国立情報学研究所 名誉教授・理学博士
福岡市科学館 プロジェクトアドバイザー
株式会社HUMIコンサルティング 代表取締役/コーディネーター
九州大学大学院 芸術工学研究院 ストラテジックデザイン部門 教授
科学コミュニケーター
福岡市科学館 館長
学校法人産業医科大学 医学部医科物理学 准教授・博士(理学)
株式会社トータルメディア開発研究所 共創事業本部PPP推進第2部部長 兼 九州事務所長
株式会社トータルメディア開発研究所 西日本事業本部事業推進第1部 副部長
- 出席 □欠席
- 井手 直秀
■ 岩永 真一
■ 亀井 修
■ 木下 寛子
■ 久保田 正廣
■ 坂本 貴和子
■ 品川 啓介
■ 園田 一浩
■ 高梨 直紘
■ 高野 明彦
■ 高安 礼士
■ 中村 佳史
■ 平井 康之
■ 本田 隆行
■ 矢原 徹一
■ 吉田 二美
■ 森岡 武
■ 姉川 泰之

- 【オブザーバー】
福岡市こども未来局 こども政策部こども健全育成課
- 鐘ヶ江 ■ 神田

- 【特定事業者/指定管理者】
株式会社福岡サイエンス&クリエイティブ 代表取締役
- 佐々木 裕人

- 【運営代表企業】
株式会社トータルメディア開発研究所 PPP事業本部チーフプロデューサー
- 佐藤 正文

- 【事務局】
福岡市科学館 事業管理者
福岡市科学館 職員
- 上田 ■野上 ■高山
■大石 ■高橋 ■長沼 ■崎山 ■坂部
■今井 ■由布 ■衛藤 ■大庭 □土田
■井倉 ■針谷
(司会・記録) ■鈴木 ■日下部

※当会議は、福岡市科学館特定事業の事業者並びに指定管理者である
株式会社福岡サイエンス&クリエイティブが設置し、運営する会議である。

議事内容

- 福岡市科学館館長挨拶
- 前回のふりかえり
- 全体会議:各分科会の進捗状況報告、質疑応答
福岡市科学館の次世代型地域科学館としてのイノベーション実施を目指し、4つの分科会で議論。
分科会ごとに「人が育つ」「展示更新」「情報システム」「科学館の機能」など多角的なテーマを設定。

・ **第一分科会 「人が育つ」アクティビティとコミュニケーションのあり方
—展示や多様なアクティビティへつなげる**

テーブルサイエンスプログラムのあるべき姿—

大石
長沼
高橋

- ・テーブルサイエンスを好奇心の入り口とし、展示→アクティビティ→講座へとステップアップできる設計を検討。
- ・ハード面(場所の目立たなさ、参加者との距離など)とソフト面(テーマ設定、効果音、コール&レスポンス等)の課題を整理。
- ・キャスト育成や情報共有、参加者増加策(人気キャラクターとのコラボ、みらいカードスタンプ等)を提案。
- ・子どもの主体性や科学的思考を促す体験設計、家庭でできる実験と科学館ならではの体験の組み合わせを重視。

・ **第二分科会 最終5ヶ年計画における中規模展示更新計画の方針**

**—2026年度大規模展示更新以降に実施する展示更新で、
実現すべき展示の方針—**

崎山
坂部
今井

- ・メインターゲットを親子とし、親子のコミュニケーションや保護者の科学的教養向上を重視。
- ・体験のフックから探究活動やイベントへ展開できる展示構成を提案。
- ・ユニバーサル・ミュージアム理念のもと、合理的配慮や社会包摂的な設計を推進。
- ・バーチャル体験やAI活用など、来館しなくても体験できる要素の導入も今後の課題。

・ **第三分科会 福岡市科学館ならではの情報システム改善方策**

**—情報発信のモデル事業として、利用者の疑問や
興味関心を事業につなげるしくみ—**

由布
衛藤
大庭

- ・中高生の来館・プログラム参加促進のため、進学・キャリア・メンタルヘルス・性教育・美容・AIなど実生活に結びついたテーマを企画。
- ・オンライン配信やSNS活用(Instagram, TikTok, LINE等)による情報発信強化。
- ・中高生自身を企画や広報に巻き込むアンバサダー活動やサイエンスカフェ共同運営を推進。
- ・ジュニアクルーとの連携や定期的なアンケート・ヒアリングでニーズを把握。

・ **第四分科会 次世代型地域科学館の機能**

**—次世代型地域科学館としての確立をめざす科学館機能と、
その先にある科学館のありかた—**

針谷
井倉
土田

- ・科学館の機能を新たに5つに整理:未来創造機能、人材育成機能、価値創造機能、福祉(ウェルビーイング)機能、持続的経営機能。
- ・地域課題解決やグローバル視点、パーソナライズされた学び、社会課題探究、心理的安全性や労働環境改善、持続可能な経営を重視。
- ・他分科会との連携やロードマップ作成、バックキャスト手法によるビジョン設計の必要性を議論。

4.全体の課題と今後の方向性

- ・分科会間の連携や具体化の段階での効率化、スタッフのウェルビーイングへの配慮が必要。
- ・理想と現実のすり合わせ、実行につながる議論への転換、委員の意見が運営に反映される仕組みの構築を目指す。
- ・今年度の成果をまとめ、来年度はより実務との関係性を重視し、実行に結びつく形で進めていく方針。